

はじめに

人間の居住に関する長い歴史をもつ地中海世界には、各地に歴史的に形成された興味深い集合住宅が見出される。それらは気候に合い、地形や土地の立地条件をよく考えた空間の構成をとって、安全で快適な住まいを形づくっている。どれも、住戸の形式を確立した上で、それらが集合するシステムにも理にかなった方法をつくり上げ、近隣のコミュニティを育んできた。こうした集合住宅によって、ある密度で住む伝統を築き上げてきたからこそ、地中海都市には、都心居住のセンスと方法がしっかり確立していると考えられる。

本研究では、地中海世界の中でも、早い時代から興味深い都市型の住宅文化を培ったスペインのアンダルシア、南イタリアの地域を選び、旧市街の中に今なお人々に住みこなされている集合住宅を対象として調査分析を行った。その空間構成、それらが集合して生まれる町並みのハードな面を分析する一方、家族構成、住まい方、維持管理の仕方など、ソフトな面からも明らかにした。

アンダルシアでは特に、セビーリャの南東に位置する小都市アルコス・デ・ラ・フロンテーラを対象に、フィールド調査を実施し、パティオ型の住宅を実測、聞き取り調査しながら、この町において集合住宅化が進行した歴史的なプロセスについて分析考察した。中世のアラブ支配の下での血の繋がった大家族での住まいの在り方が、キリスト教の文化の中で変容し、集合住宅化してきたこと、近代の住まい方の変化で集合住宅化が加速されたことを解明した。複数の家族が同じ建物に住むためのルール、工夫が住民の間でどのように成立しているかをも明らかにした。

南イタリアでは特に、ナポリの南に位置するかつて中世海洋都市として名を馳せたアマルフィを対象に、フィールド調査を実施し、「集合住宅」という観点から多くの住宅を対象として実測と住まい方に関するより詳細な聞き取りの調査を行った。海に開く溪谷の斜面に中世以来、水平、垂直方向に住宅が高密度に発展して行った動的な形成過程、その中で、多くの家族が一つの建物の中に動線や中庭・前庭などをうまく共有しながら、安全で快適な居住空間を実現していった過程を明らかにした。斜面の特徴が大いに生かされ、様々なレベルからのアプローチが可能になったこと、どの住戸もバルコニーからの眺望をもちえたこと等を考察した。

本報告書は以上のような研究の成果をとりまとめたものである。今後の我が国における質の高い集合住宅を計画し、そこに住みこなし、都市型居住の文化を形成していくにも、地中海世界のこのような経験から学ぶ意義は大きいと言えよう。